

春先に多くいるムネアカテングベニボタル (兵庫県甲虫相資料・134)

高 橋 寿 郎

毎年春分の日前に市内の舞子墓地に墓参に行った帰り道、付近を何か虫が見当らないかと歩いて見るのが楽しみの一つである。此処2年程松の樹の切株の所にムネアカテングベニボタル *Konoplatycis otome* (Kōnō, 1932) が鮮かな緋色をしてかたまるとまっているのに出会った。そばの松の朽ち木をくずして見ると樹皮下から出て来たのもいた。幼虫らしきものは見られなかった。陽の当る所に止まっていて余り動かなかった。この時期に成虫として羽化して出て来るのだろうか、極めて鮮かな緋色を呈しているいかにも今羽化しましたと言うようなあざやかさである。他の野外での採集でも比較的早い時期に得られている。

この種は河野広道博士が *Platycis otome* として産地を Honshu とのみ記して記載された種である (Ins. Mats., Vol. 7, No 1/2, P. 59, 1932)。中根博士はこの種をタイプに新亜属 *Konoplatycis* を創設された (1969)。後大図鑑追補, 正誤表 (1978) では *Konoplatycis* 属としておられる。

分布は本州, 四国, 九州, 対島が知られていて兵庫県下からは中根博士も Takarazuka, Okanomura (多紀郡岡野村) を記録しておられ, 洲本市三熊山 [N. Hirochi etc, 1977], 氷上郡春日野 [高橋, 1960] の記録がある。筆者自身は津名郡岩屋 (1♂, 29-IV-1969), 神戸市広野 (1♂, 10-IV-1955) で採集している。この舞子での採集は次の通りである。

9♂♂, 3♀♀, 16-III-1982, 4♂♂, 1♀, 17-III-1983。

尚, 蜂谷幸雄氏が屋久島で採集された若干の甲虫類を御恵与下さったが, その中に本種の 1♀ (24-III-1970) が入っていた。屋久島からの記録は今迄無かったと思われる。採集時期が大変遅いが美しい色をしている。

ベニボタル科の生態に就いては, 余り詳しい報告は見当らない。有名な "三葉虫型幼虫" (*Trilobite larva*) に就いては福田氏 (1956), 阪口博士 (1981) によって図説されているが, 日本産のこの科のもので幼虫が図説されているのは, クロベニボタル *Cladophorus geometricus* (林, 1954, 1959), *Cautires* sp. (福田, 1959), クロハナボタル *Plateros coraeinus* (林, 竹中, 1960), ヤマトアミメボタル *Xylobanus japonicus* (竹中, 1962) の4種位である。林博士は他に枯木に生息するホタル上科の科の検索表でベニボタル科幼虫の特徴を記しておられる (1981)。いづれにしる飼育が大変むづかしい仲間だこれ等の生態解明することは仲々大変だと思ふ。

今迄の幼虫の記録から見て成虫になるのは4月下旬以後のようで, 3月の中旬に成虫になると言う

例は見当らない（成虫越冬にしてはどれも鮮かな個体ばかりであった）。このような成虫出現期は始めてのように思われる。

コデマリ（小手毬）の花に集るコジマヒゲ
ナガコバネカミキリ
（兵庫県甲虫相資料・136）

高橋 寿郎

コジマヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra kojimai* (Matsumura, 1939) (小島圭三博士が横浜本牧で採集された1♀で *Epania kojimai* として記載された。Ins. Mats., Vol. 13, No. 2/3, P. 56, 1939) は兵庫県下では広く分布し、個体数も割合多く採集されているようである。

たゞし神戸市内からの記録は今迄見当らなかった。最近身近の所に多くいる種であることがわかったので、此処に報告しておきたい。

神戸市兵庫区鶴越筋夢野大師福寿院のそばに公園として休息場が設けられていて巾1m、長さ20m位にわたってコデマリ (*Spiraea cantoniensis* Lour.) が植えられている（海拔約198m）。この開花期4月末から5月初めには無数のツヤケシハナカミキリが集ってくる（勿論他にもポビューラな仲間も多く集ってくる）。ツヤケシハナカミキリの方は♀の色彩変化に名付けられている異常型と言うのも結構見られる。大変活潑に飛びまわっている。これに反しコジマヒゲナガコバネカミキリはコデマリの花の中にもぐり込んだりとまっているが、動作は大変のんびりしていて手でさわってもゆっくり手の平に落ちて余り逃げようとしめない。花粉を身体につけているものが多い（ツヤケシハナカミキリの方はとまっている所へ手をのばすと素早く飛び去ったり下へ落ちたりする）。

かなり多くのこのコジマヒゲナガコバネカミキリがコデマリの花に来ているわけで1983年5月3日から5月12日までに14♂37♀が採集出来た。案外身近の所を注意すると普通に見られる種なのかもしれない。5月3日～5日頃が最盛期のように5月12日に見られたのが最終だった。尤も調べた時間帯が午前9～10時の1時間づつであるから午後になると状況も違ってくるかもしれない。それと案外と♂の方が♀に比して飛来している個体が少ないように思われる。

カエデ、サンショウ、ウシコロシなどの花上とかミズキの枯木で得られるとか、幼虫はミズキ、キブシ、モミにいたると言われている（草間，1972）。林・小島両博士によるとソヨゴの枯枝に6月頃産卵され、幼虫は10～11月に老熟し、11月下旬に蛹になって越冬、翌年4月中旬羽化しばらく材中にて孔道を通って外に出ると（1974）。